

## 操法大会で大山第3分団が3位入賞

第60回鳥取県西部消防ポンプ操法大会が、6月10日に鳥取県消防学校で行われました。各消防団員が日々の成果を発揮し、磨き上げた消防操法の技術を披露しました。

競技は、ポンプ車操法の部（参加チーム10チーム）と小型ポンプ操法の部（参加チーム4チーム）で行われました。



目標物に放水（大山第3分団）

大山町は、ポンプ車操法の部に旧町ごとに各1チームが出場し、大山第3分団が第3位の成績をおさめられました。名和分団、中山第3分団は惜しくも上位入賞を逃しました。

消防団は町民の安心安全のために日ごろから訓練を積み重ね、火災発生時には、いち早く駆けつけて消火活動ができるように準備しています。

## 頂上碑移設に 寄付をありがとうございます ぐざいます

大山頂上碑移設に役立ててほしいと、大山の頂上を保護する会（会長・竹口大紀大山町長）に、ライオンズクラブ国際協会（米子市と境港市にあるライオンズクラブ10団体）から寄付をいただきました。贈呈式は6月29日に大山町役場で行われ、同協会の川中修一さんと、田中康晴さんが目録を竹口町長に手渡しました。



贈呈式の様子

## 大きくなーれ！ 2代目大山並木松

大山開山1300年、「山の日」記念全国大会の記念行事として、2代目大山並木松の植栽が6月27日に行われました。この苗木は、平成28年3月に大山小の児童が接ぎ木をし、大切に育てられていたものです。

植栽作業は、鳥取森林管理署職員の指導で行われました。大山小の4・5年生23人と県、町、大山寺地区の

代表など関係者らが苗木を植え、倒れないように添え木をして根元の周りを踏み固めました。

遭難者が多かった大山参りの冬の道しるべとして、およそ400年前に大山寺豪円僧正が、当時の山奉行に命じて植えさせたと伝えられている「大山並木松」。現存しているのは21本で、老衰や害虫等の影響で減少しています。

並木松復活の活動に取り組む大山小学校の児童たちは「未来のシンボルとして大きく育ってほしい」と話していました。

